

平成26年度第2回米子市文化財保護審議会議事録概要

□日 時 平成27年3月26日（木曜日） 午前10時～11時30分

□場 所 米子市役所第2庁舎3階会議室

□出席者 (委員) 小原顕会長、田中秀明副会長、神谷要委員、
喜多村理子委員、鷺見寛幸委員、常松喜恵子委員、
畠中弘委員、丸山柚美委員、山藤良治委員
(事務局) 岡課長、下高課長補佐、福田主事、中原主事、杉谷主事

□内 容 ・挨拶（岡）：会議趣旨説明
・議事
・その他

1. 平成26年度文化財保護事業実施状況について

【事務局資料説明・報告】

- ・ 市内遺跡の発掘調査について
- ・ 史跡の現状変更について
- ・ オオサンショウウオについて
- ・ 在来種タンポポの保護について

【質問等】

なし

2. 平成27年度文化財保護事業実施計画について

【事務局資料説明・報告】

- ・ 市内遺跡発掘調査事業について
- ・ 史跡整備について（史跡上淀廃寺跡環境整備事業、史跡青木遺跡発掘調査事業、史跡米子城跡保存整備事業、史跡福市遺跡）
- ・ オオサンショウウオについて
- ・ 米子盆踊り大会50周年記念事業について
- ・ 瑞仙寺文書について
- ・ 高田家住宅防災防犯整備事業について

【その他事務局説明・報告】

- ・ 和田のハマナスについて

自生かどうかの裏づけを得るため、今後地元への聞き取り調査を実施する予定である。それに加えて、遺伝子調査を実施したほうが良いというアドバイスも貰っており、可能であればその実施も検討したい。また、ハマナス以外の植物の保護や指定についての意見も伺っており、海浜部分の植物群落として何らかの保護的な処置ができないか今後検討していきたい。

【質問等】

(常松委員) 米子盆踊のDVD作成について、歌の微妙な旋律は年を経ると大きく変わってしまうこともある。歌や歌詞についても、踊り方と一緒にしっかり残してもらいたい。

(事務局) 歌については、スタジオで録音を行なうことを考えているが、採譜することがそう難しくないのであれば、確かに楽譜に残すというのも一つの手段である。今後検討してみたい。

(田中副会長) 史跡上淀廃寺跡環境整備事業について、水路改修工事でU字溝を整備し、なるべく水の浸み出しを防ぐということである。しかし、水の浸み出しによる大きな影響がないならば、人工的なU字溝ではなく、例えば石垣の排水溝のようなものの方が見た目も良くなるのではないだろうか。どうしてもということであれば止むを得ないが。

(事務局) あの場所に人工的なものが入るとするのは、確かに無機質ではある。しかし、水路が素掘りであるために、大雨のたび地面を削って、最終的には下流に建つ小屋に雨水が直撃するというような事態も発生している。すべてをU字溝にするということではないが、今まで懸案であって地元からも要望が出ていたようなところについては実施せざるを得ないと考えている。

(田中副会長) 史跡上淀廃寺跡の塔跡について、できた当初からあまり良い排水ができていないようである。結局また水が溜まり、表面のコーティングの劣化や法面の劣化が進んでいる状況である。何か対応はできないものだろうか。

(事務局) 状況については文化庁にも見てもらい、理解していただいている。なお、コンクリートやアスファルトで固めない土系舗装を採用したところについては、全国的に同じような状況が出てきているようである。そのため、整備は10年が目安ではあるが、それが経たないうちにできるかもしれないという話も聞いている。当初から懸念材料としてあった排水の問題も含めて、直せるところは直したいと考えている。

(神谷委員) 米子城保存整備事業について、資料のイメージ図では桜の木を植えるということになっている。史跡公園というからには、例えば侍屋敷のような文化的なものがあるのではと思っていたが、普通の公園のようなイメージである。事務局としてはそのようなものを目指していくということなのだろうか。また、三の丸の価値ということに触れられたが、文化財的にどのようなものが地下にあると予想されるのだろうか。

(事務局) イメージ図では桜の木を植えるということになっているが、必ずしもこのような形ではなく、今後いろいろと保存管理計画を策定していく中で意見を聞きながら検討したいと考えている。遺構の復元についても、モノを建てて置くのがいいのか、あるいは植物のようなものでそれを表現するのがいいのか、もちろん案内表示板のようなものは設置していこうかと考えているが、そういったところも含めて、全体の保存管理計画を策定していく中で検討していきたい。

また、三の丸についてであるが、絵図によると米蔵や武士の詰所、荒尾家の別宅といったものがあったといわれている。その遺構が地下にどうなっているかということはまだ分かっていないが、絵図や文書等の資料をもう少し精査することで、どのような建物があったかということは明らかになってくると考えられる。ただし、文化庁の考えでは、この三の丸というところの空間性を非常に重要視している。仮に遺構がないとしても、このエリアとしては三の丸・二の丸・本丸という一つの城の中核が臨めるかなり珍しい城跡だという価値付けをしているので、この三の丸を何らかの格好で整備していくというのは非常に教育委員会としては望ましい姿かと考えている。また、江戸時代前後の建物の復元については、古代のものとは違って非常に厳密であり、文化庁からかなり精密な図面や資料を要求される。そのため、三の丸の建物の復元については今後の調査の進展を待つしかないと考えている。さきほども申し上げたように、どのような表現でこの三の丸の文化財的な価値を一般の方に伝えていくかということは、保存管理計画の策定委員会や整備検討委員会の中で考えていくことになると思うが、こういう風にしていく、というようなことではなく、ある程度長期的な視野も入れながら整備というものを図っていきたい。

(田中副会長) 福市遺跡の竪穴住居について、できれば埋蔵文化財センターがある辺りでもう一度復元して、活用できるようにする方が効果もあるのではないだろうか。また、福市遺跡では収蔵庫も老朽化しているため、その対応も考えなければならない。

(事務局) 竪穴住居・収蔵庫ともに、かなり老朽化が進んで雨漏りも出てきているので、将来的には取り壊して更地とし、史跡公園に戻したいと考えている。なお、竪穴住居については埋蔵文化財センター前の住居址のところに復元ができたかと考えているが、今ある場所は道路や駐車場からも目に付き、シンボリック的にはそれで価値があるとも思っているため、様々な方面から今後検討していきたい。

3. 米子市文化財の指定候補について

【諮問】

- ・ 水管橋（糺町・西倉吉町）
- ・ 八幡神社木造神像
- ・ 八幡神社木造狛犬
- ・ 青木神社社叢

4. その他

【今後の進め方について】

（事務局）以前から、「指定にした方がいいのでは」という話の出ている物件がかなり溜まってきているため、できれば今後の審議会では、諮問、答申、諮問、答申というサイクルで行なっていけたらと考えている。今回は4件を諮問したが、次回のときに答申がいただけるものについては答申をいただきたい。

次回については、来年度5月か6月に実施し、できればハマナスを見ていただきたいと考えている。それ以外についても、諮問したいと考えている物件については現地調査を合わせて行ないたいので、午前・午後ともにいただくことになるかと思う。今回諮問した物件については資料を送らせていただくが、ご意見等は事務局に随時お知らせいただければ、次回までに回答できるものは回答し、良い方向に持っていきたい。

【文化財保護審議会の任期について】

（事務局）今回の委員の皆さんにおいては、3月31日をもって任期が終了となり、引き続き4月1日からは新しい委員を委嘱していかなければならないが、できれば皆様方に再任をお願いしたいと考えている。

（小原会長）この審議会の定員は12名ということである。しかし、現在の委員数は10名であるので、ぜひ12名となるようにしてほしいのだが、いかがだろうか。

（事務局）条例上では12名となっているので、12名にもっていきたいと考えている。今までに亡くなられた委員の方もあって空席ができていますが、あるべき姿は12名だと思っているので、今後は分野の偏りなども検討しながら、残る2名の選任を図っていきたいと考えている。